

## 区立幼稚園のあり方の検討状況について

### 1 経緯

昭和44年、緑幼稚園及び第三寺島幼稚園の開園後、区立幼稚園は令和2年5月1日現在、7園に272人が在園している。保育需要の高まりの中で区立幼稚園在園児は減少し、令和2年度の定員充足率は56%であり、来年度も今年度並みの率が見込まれている。従来、区立幼稚園の適正配置は、「区立幼稚園全園の定員充足率の平均が連続して60%以下」となった場合に統廃合を含め検討することとしており、今年度はその初年度に該当する。

今後も、区立幼稚園のより良い教育環境を確保していくために、統廃合及び教育内容拡充の検討を進めている。

### 2 課題と検討内容

#### (1) 定員見直しの必要性

過去10年間の区立幼稚園入園児数の変化や、本区の子どもの人口の将来推計等をもとに算定した今後10年間の園児数推計では、総定員490人に対し令和12年度は266人となり、現在より2%の微減を見込む。

また、区立幼稚園の定員充足率は60%を下回る状況が継続する見込みであるため、区立幼稚園の廃止を含め総定員を見直し、効率的運営を図る必要がある。

#### (2) 教育サービス拡充の必要性

区民の多様なニーズに応えるため、区立幼稚園において新たに「3歳児保育」及び「預かり保育」の実施について検討する必要がある。

### 3 今後のあり方について（案）

#### (1) 適正配置の実施（1園廃止）

上記2(1)により区立幼稚園利用者の減少を見込み、区立幼稚園の定員充足率を確保するため、1園（定員70名）を廃止する。廃止園及び時期については、近隣の教育・保育施設（区立・私立幼稚園、保育施設）の状況及び地域的バランス等を総合的に判断し、令和2年度墨田区議会定例会2月議会の子ども文教委員会で報告する予定である。

#### (2) 教育サービス拡充に係る私立幼稚園経営への配慮

「3歳児保育」及び「預かり保育」は、私立幼稚園でニーズを充足しており、区立幼稚園によるこれら事業の実施は、私立幼稚園の経営に直接影響を与えるおそれがある。そのため、私立幼稚園の運営状況を引き続き注視し、サービス拡充の有無を令和2年度墨田区議会定例会2月議会の子ども文教委員会で報告する予定である。